

# 国営土地改良事業 事後評価

## 現地調査概要

北海道開発局農業水産部

## 地区別現地調査概要 目 次

(国営かんがい排水事業)

び っ ぶ 地 区 ..... 1

(直轄明渠排水事業)

な か が わ 地 区 ..... 4

**令和3年度 事後評価「ぴっぴ地区」国営事業評価技術検討会**  
**WEB方式による現地調査概要**

日時：令和3年6月3日（木） 15：25～16：45

出席者：

（技術検討会） 長澤委員長、井上委員、岡村委員、紺野委員、波多野委員、森委員  
（地元関係団体等） 農業者、旭川市、鷹栖町、比布町、愛別町、たいせつ農業協同組合、  
比布町農業協同組合、上川中央農業協同組合、大雪土地改良区  
（事務局） 北海道開発局

概要：

【現地】 頭首工、用水路、民泊施設、農産物直売所 ※写真、動画等で確認

**【意見交換会】**

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

- ・事業実施後は、通水開始したその日のうちに十分な量の用水を利用できるようになった。事業実施前後での差は誰もが感じており、用水が安定して供給されることに満足している。
- ・末端用水路などの更新に当たっては、漏水防止のための維持修繕やごみ上げの労力軽減などのため、今後はパイプライン化による整備が必要。
- ・石狩川に近いほ場では、砂地が多く、水持ちが良くない。その中で、必要なときに必要な量の用水を手当てするためにもパイプライン化は必要。
- ・水田の経営規模が大きく、作業効率を高めるためにほ場の大区画化を進めている。より作業効率を高め、さらなる経営規模拡大を図るためにも、今後も大区画化の整備が必要。
- ・事業実施前は、作業が集中する時期に用水の取り合いがあったと聞いており、上流側では、下流側の水利用に支障をきたさないよう気遣いながら用水を利用している。小さい区画より大きな区画の方が用水の無駄が生じないので、大区画化は用水の効率的利用にもつながるのではないかと。
- ・低たんぱく、高品質米が求められているので、施肥管理には留意している。経営規模

が大きく作業効率を優先しているため、水稲生産では手の込んだ栽培は行っていない。一方、いちごの生産には有機栽培を行っており、用水を利用し、こまめな水管理などに取り組んでいる。

- ・土質・土壌にあった施肥設計が重要。PR を兼ねて特別栽培米などを生産する農家もあり、そのような作り方を参考としながら、これからの農業を進めていくことが必要。
- ・用水路への鹿の落下に対しては、農業者への啓発を行い、水路で事故が起きていることを広めることが大事と思っており、その上で、動物との共存の観点で、何かできることがあれば協力していきたい。
- ・鹿による作物の食害については、電牧の設置による対策を行っているところ。
- ・山際を流れている比布幹線用水路においては、大雨時には頭首工からの取水を止める一方、山腹からの流入水を受けており、低地部の農地などへの流出を防ぐことから、防波堤のような機能を果たしている。年に2～3回は頭首工からの取水を止める大雨が生じている。
- ・農業にとっての動脈というべき用水施設が整備されたことが、経営の大規模化の最初のきっかけになったと感じる。それに合わせてほ場の大区画化、農作業機械の大型化・効率化が進み、今に至っており、それらによって6次産業化に取り組むことができる環境が整えられたと考えている。
- ・用水の安定供給が図られたことが水稲の水管理を通じて良質米の生産につながり、ひいてはライスセンターの利用にもつながっている。JA びつぷ町では、年間10万俵の米を3か月かけて調整作業を行っており、季節雇用ではあるが、雇用労働を使いながら均一なブランド米を作り、PR できていると考えている。
- ・水管理システムはこの事業により導入し、遠方監視ができることから、管理労力の軽減が図られるとともに、分水管理を安定的に行うことができるなど、用水の安定供給につながっている。今後はこれら施設の更新や管理機器の増設をどこまで進めていくかが課題。
- ・特別栽培米は若手農業者が主体となって行われ、付加価値の高い農業が進められている。農業以外の部分においても、若い農業者の取組が町を盛り上げておりプラスになっている。

- ・ 作付面積の変動について、ねぎについては、軟白ねぎから千本ねぎに代わっていることに加え、高齢化から生産戸数が減少し、作付面積の減少につながっている。小麦、大豆の作付け増は、規模拡大に伴い、作業受託による省力化が可能であったことが背景にあるものと考えている。
- ・ 幹線用水路が整備され、用水の安定供給が図られたことで、ほ場の大区画化に取り組むことや経営規模の拡大につながり、それに付随して農家の所得も安定してきている。そのことがUターン就農者の増にもつながっていると考えている。
- ・ 幹線用水が整備されたことで、安心して大区画化にも着手できる。大区画化することで後継者が営農できる環境が整うので、農業者も期待している。
- ・ 大部分の農家がすでに若手農業者に切り替わってきており、事業の効果が徐々に発揮されているものと考えている。
- ・ 行政区や土地改良区など地域の仕事を担える人の絶対数が少なくなっており、それを区画整理や用水管理を便利にすることなどで補い、何とかこなすことができていると感じており、その中でこの事業も寄与していると考えている。今後の規模拡大には条件不利的なほ場の改善、農作業の機械化や自動化を進めていくことが必要となるのではないかと。
- ・ 3月から雇用労働を入れて農作業を行っている。来て頂いている作業員は旭川市の方が多く、作業内容によっては町内の高齢者事業団も利用している。

以上

**令和3年度 事後評価「なかがわ地区」国営事業評価技術検討会**  
**WEB方式による現地調査概要**

日時：令和3年6月2日（水） 16：30～17：50

出席者：

（技術検討会） 長澤委員長、井上委員、岡村委員、紺野委員、波多野委員、森委員  
（地元関係団体等） 農業者、中川町、北はるか農業協同組合  
（事務局） 北海道開発局

概要：

【現地】排水機、排水路、自給飼料センター、野菜生産農家 ※写真、動画等で確認

**【意見交換会】**

委員から、事業に対する効果、要望、期待等に関する質問があり、参加団体から以下の回答や意見、状況説明等や委員から評価に関する意見があった。

- ・ 事業実施前は大雨時には湛水被害があったが、事業の実施による排水改良によって、事業実施後は解消された。
- ・ 牧草畑が湛水して泥が混入すると、次年度から収穫できず、牧草の更新が必要となっていたが、事業実施により被害はなくなっている。
- ・ 排水路沿いは排水性が低い農地であったが、事業により排水路の水位が下がり、農地の排水性が改善されたことで、トラクターがぬかるむこともなくなった。
- ・ さらに刈り取った牧草を乾燥させる際に、地面の水分が多いと夜間に湿気で濡れてしまうところ、畑の排水性の改善により牧草の乾燥が進み、作業効率の改善が図られているほか、泥が入ることが少なくなることで良質の粗飼料が確保できる。このように作物収量などで数字に表れない効果が大きい。
- ・ 排水機場の能力向上や排水路の断面拡幅により、土砂が詰まることによる排水路からの溢水はなくなっている。
- ・ 排水路への土壌流出については、地区内の農地は緩傾斜が多く、また傾斜地は牧草利用が多いため、あまり生じていないのではないかと思う。

- ・ 幹線排水路の整備によって排水性が大きく改善した畑を新規参入者が利用しており、新規参入を受け入れる上で今回の事業は非常に有益であった。
- ・ 本町でも後継者難の問題はあるが、酪農家戸数が 20 戸に満たない中では比較的后継者がいる地域ではないかと思う。
- ・ 農業を営んでいる以上、環境のことも考えていかなければならないと考えており、できる範囲で環境に対する投資をしていくことも必要と考えている。また、農地を守っていくという考えを国民にも持っていただきたいと思っている。
- ・ 農協の酪農部会では二酸化炭素の排出が話題となっており、今後、どのように二酸化炭素排出の削減に取り組むことができるのか、継続して協議していきたい。
- ・ 事業により排水位が低下したことで、道営事業の整備にも多大な効果がある。
- ・ かぼちゃの作付面積の増は、地域に合った作物であるほか、排水性が向上したことも要因。
- ・ 農協の重点作物として、契約販売を推進し、安定した単価での取引が可能となったことも作付面積拡大につながっている。
- ・ 収穫時期に大雨が発生した際には適期の収穫ができなくなるが、事業の実施によりそのようなことが減少し、地域のかぼちゃの品質が向上することで、販売単価の向上や実需者の評価につながったものと考えている。
- ・ 町内の酪農経営は戸当たりの牧草面積が多く、飼養牛への粗飼料のほか、道内や本州へ農協経由又個人で販売しており、これらも地域の酪農経営にとっては重要な副収入となっている。

以上